

公開審査会で 助成先を選定

神戸のNPO、7団体に

市民活動団体に資金を助成するNPO法人「しみん基金・KOBÉ」（神戸市中央区旭通1）が26日、神戸市青少年会館（同区雲井通5）で、本年度の助成先を選ぶ公開審査会を開いた。各団体が活動にかける思いや事業を発表。審査員らが目の前で投票し、総額237万9千円の助成を決めた。

市民や企業などの寄付金を財源に1999年から審査会を実施。今回は31団体が申請し、事前選考を突破した14団体が参加した。

「一般枠」では5団体が選ばれた。海外出身者にスペイン語で生活情報を届ける「ひょうごラテンコミュニティ」は「日本語が分からず、南海トラフ地震に不安を持つ仲間が多い」として、クリスマスの催しで身を守る方法を伝える。「神戸・子どもと教育ネットワーク」は、神戸空襲や戦争の記憶継承に向け、若い親子で語り部に聴き取りをしてもらい、記録に残す。

市民活動団体が事業内容を発表した公開審査会＝神戸市青少年会館



被災、熊本県西原村でコミュニティ維持を手伝う「神戸大学持続的災害支援プロジェクトKonti」など2団体が選ばれた。

しみん基金・KOBÉは、今回の助成に向け寄付を募っている。同法人 ☎ 78・230・9774（小林伸哉）

2017年(平成29年) 10月27日 金曜日

被災者思う遺志継いで 黒田裕子賞創設 市川さんが受賞

借り上げ復興住宅で支援

阪神・淡路大震災など国内外で発生した自然災害の被災者支援に尽力し、2014年に亡くなった黒田裕子さんの思いを受け継ぐ市民活動をたたえようと、神戸市中央区のNPO法人「しみん基金・KOBÉ」が、その名を冠した「黒田裕子賞」を創設した。第1回受賞者には、復興住宅で暮らす阪神・淡路の被災者を支援する神戸市灘区の団体職員市川英恵さん(23)が選ばれ、26日に表彰状が贈られた。



第1回黒田裕子賞の表彰状を受け取った市川英恵さん＝神戸市中央区雲井通5、神戸市青少年会館

同基金は1999年に黒田さんが設立。市民や企業などの寄付金を財源にボランティアや市民団体の活動を支える。黒田さんへのぶ会で寄せられた厚志のうち約150万円を、同基金に寄付。同基金は、この資金を基に初代理事長黒田さんの現場主義、一人一人への寄り添い、温かさを備えた活動をたたえることにした。

市川さんは神戸大在学中から、災害復興住宅でのお茶会や戸別訪問などを重ね

てきた。卒論で、自治体が借り上げ復興住宅の住人に期限後の退去を求めている問題を法制度などの面から扱い、17年に著書も出版。住み慣れた住居の退去を迫られ、不安を抱える高齢者の支援を続けている。

授賞式で、市川さんは「問題に関わってきた皆さんでいただいた賞。憲法25条の

生存権が問われている。入居者の命と健康が一番大事」と活動への意欲を語っ

た。賞金5万円は入居者支援の活動に充てるという。

（小林伸哉）